



インフルエンザウイルス感染症をふりかえって

・インフルエンザの流行はどうやって決まるの？

小児科クリニックや病院の小児科外来を受診してインフルエンザと診断された人の数を毎週保健所に報告しています。保健所は県、県は国立感染症情報センターに報告し情報が集められます。その報告数が一定以上の数になると流行と判断します。このため、テレビや新聞などの報道は、国まで集められたデータをみて報道しているため約2週間前のデータをみて報道していることとなります。

・ワクチンを接種したけど、罹ってしまいました。やっぱり、ワクチンは効いていない？

毎年、世界保健機構(WHO)が今年の流行するインフルエンザの型を予測します。それをもとに日本のインフルエンザワクチンの型を決められます。このため、実際に流行する型によっても効果が変わってきます。予防効果は、大人で5割から7割、小児では5割から7割、小学校入学前は3割から5割くらいと考えられます。ワクチンは感染を予防する効果のみではなく、主な合併症である肺炎や入院の予防効果は6割くらい、死亡を防ぐ効果は8割くらいあり、重症化させないためのワクチンともいえます。

・ワクチンを接種したけど罹ってしまいました。来年は接種するのやめようかな？

これは、間違いです。インフルエンザワクチンは、重症化させないことも大切な目的にしています。また、かかる基礎免疫が確実につきまますので次回のワクチンの効果があがると言われていて、毎年続けて接種したほうが効果が上がると考えられています。

・タミフルやリレンザを使っても大丈夫ですか？

大丈夫です。数年前にタミフルを服用した中学生が飛び降りたことをきっかけにインフルエンザによる異常行動が報告されるようになり、厚生労働省は10歳代のタミフルの服用を中止しました。その後、沢山の検討がなされ、最終報告は、タミフルを服用しなかった方が異常行動を多く起こすことが分かり、原因はインフルエンザ感染によるそのものが原因と結論づけられています。このため、インフルエンザと診断されたら、きちんと薬を服用することが大切です。発症して特に数日は、目の届くところでお子さんを十分見守ってあげてください。

・夜、おかしいことを言いましたが、大丈夫ですか？

高熱のとき、おかしいことを言ったり、見えないものが見えたりすることがあります。これを、“熱せん妄”とよびます。インフルエンザでは、他の感染症にくらべてこの症状が出やすいと言われています。10~15分以内なら心配ありませんが、15分以上経っても続いたり、痙攣をとまったりするような場合は救急医療機関を受診してください。

子どもの健康

—広域予防接種事業始まる—

平成26年度から愛知県でも広域予防接種事業が始まりました。広域予防接種事業とは、これまでは住民票のある市町村でしか定期接種はできませんでしたが、昨年からは愛知県下なら住民票以外の市町村でも接種券を利用した接種ができるようになりました。

これは、市町村境に住んでいてかかりつけ医は隣の市町村の小児科クリニックであるとか、病気で大学病院等がかかりつけ医でそこで予防接種ができるようにするための制度です。

まだ、始まったばかりなので制度で、この制度を利用するためには事前に住民票のある保健所への申請が必要です。岡崎市と幸田町は大丈夫ですが、市町村によってはこの制度の参加に消極的な市町村があるようです。何かありまたら受付まで申し出てください。

クリニックでの 看護師からの うれしいエピソード

入園・入学の時期ですね・・・

もうすぐ入園って子どもたちが増えてくる時期になりましたね。保育園や幼稚園への入園でのたくさんの布小物の製作で忙しいお母さんもいることでしょう。

制服や園の服を着ている子どもも多くなり、なんとなくすごくお兄さん、お姉さんになったように見え、「あの赤ちゃんが・・・。」ってうっとり見てしまう時期でもあります。

小児科からは、今一度「食物アレルギー」について見直す時期でもあります。

ここ最近、学校や園での給食中のアレルギー反応の子ども不幸な事故が続いています。

学校や園でも十分に対応策はとられていますが、保護者側からできることは、

- ①本当にアレルギーなのかを見極める
 - ②かかりつけ医と相談し食べれるもの、量を考える
 - ③きちんとした知識を持つ
- スムーズなスタートがきれるよう不安なことは聞いてください。